

# 令和3年度 学習分析事業 改善計画 三原市立本郷西小学校

## 1. 本年度の結果

### ①学力定着分析 NRT 偏差値平均 (全国を50とする)

		2年	3年	4年	5年	6年	全体
国語	目標値 偏差値平均	/	/	/	/	/	/
	結果 偏差値平均	46.9	48.2	47.1	51.5	50.6	49
算数	目標値 偏差値平均	/	/	/	/	/	/
	結果 偏差値平均	46	50.1	45.8	47.8	50.6	48
理科	目標値 偏差値平均	/	/	/	/	/	/
	結果 偏差値平均	/	/	48.9	47.6	51.9	49.4
全体	目標値 偏差値平均	/	/	/	/	/	/
	結果 偏差値平均	46.5	49.2	47.3	49	51.1	48.6

### ②全国学力・学習状況調査 正答率平均 (第6学年対象)

教科	国語	算数
目標値 (対県比)	/	/
結果 (対県比)	70 (106)	69 (99)

## 2. 調査から明らかになった課題

<p>【年度当初の学力について】(NRTをうけて) 正答率が全国正答率より低い。</p> <p>●国語科では、2年「話題を決め伝える内容を選ぶ」(47%)、3年「文章を読み感想などを伝える」(16.3%)、4年「目的に応じて工夫して書く」(32.3%)、5年「情報を選び構成を考えて書く」(40.7%)の通過率が低く、伝えることや書くことに課題がある。</p> <p>●算数科では、4年「表と棒グラフ」(41.1%)、5年「表と折れ線グラフ」(45.8%)の通過率が低く、データの活用の領域で課題がある。</p> <p>●理科では、4年「乾電池と豆電球」(17.1%)、5年「乾電池の働き」(50.6%)など、物質・エネルギーの領域に特に課題がある。</p> <p>●全体的に問題文になると題意を読み取ることが難しく、また、読み込むのに時間もかかるため、特に後半での無回答が多くなる傾向がある。</p>	<p>【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)</p> <p>●国語科では、「目的を意識して中心となる語や文を要約する」27.6%、「目的に応じ、文章と図表を結び付けて必要な情報を見つける」48.3%と正答率が低く、NRT結果と同様に、長文を読むこと、条件や構成を考えて書くことに課題がある。また、県平均と比べ特に差が見られたのが、「助詞の意味、要約、資料の目的を理解すること」である。</p> <p>●算数では、「速さを求める除法の式と商の意味を理解」44.8%、「道のりの差を求める」記述問題48.3%、「商が1より小さくなる等分徐」48.3%と正答率が低かった。「速さ」、「単位量あたりの量」は、ともに「割合」の考え方が基になっており、「割合」の概念理解に課題がある。</p>
---	---

## 3. 課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標 (何を、どの程度達成するか)	達成のための具体的取組 (どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
<p>【授業改善を通じた学力・学習意欲の向上】</p> <p>○全教諭が「なぜ」「どうして」を児童から引き出す「問いの設定」を意識した授業を実施できるようにする。</p> <p>○全学級で、国語科で問題文が長文の問題や算数科の文章題を解く練習を実施し、長文を早く正確に読み込む力を伸ばし、テストでの無回答をなくす。</p> <p>○全学級で、授業を通して表現力をつける場、自分の伸びを実感できる場を設定し、自信と意欲につなげる。</p> <p>○全学級で、課題の見られた領域や単元の学習では、アシストシート、家庭学習等で基礎問題・適用題に重点的に取り組む。</p>	<p>①NRTの誤答分析による実態把握と改善計画の立案を行う。</p> <p>②校内研修において、カリキュラムと照らし合わせ、重点取組を行う単元、領域を確認し、課題箇所を前学年で学習する際、アシストシートで確実に理解できたかを確かめる。</p> <p>③主体的な学びを促す「問い」を位置付けた課題発見・解決を行う授業研究を通して、授業改善を図る。(全教員が必ず1回は問いを位置付けた指導案を作成し、授業提案する。)</p> <p>④目標の明確化、まとめにつながる板書に重点をおいた管理職による授業参観を実施する。</p> <p>⑤全学級で、授業の中で「話す活動」「書く活動」「振り返り」を確実に位置付ける。</p> <p>⑥全学級でのびのびタイムに長文の文章題に取り組ませ、そこから学級としての課題を洗い出す。</p> <p>⑦全教員で全国学力・学習状況調査の誤答分析を行い、学習の系統を整理して下学年で重点的に指導すべきことを整理し、実行する。(アシストシートの活用)また、6学年においては、正答率が低い問題、県平均より差が見られた</p>	<p>①6月</p> <p>②6月～2月</p> <p>③6月～2月</p> <p>④学期に1回以上</p> <p>⑤9月～2月</p> <p>⑥9月～2月</p> <p>⑦9月～2月</p>	<p>・QU2回目の学習意欲の数値(全学級で全国得点以上)</p> <p>・各学期の単元末テスト平均値(全学級85%以上)</p> <p>・R4年度NRTでの無答率、偏差値平均(今年度以上)</p> <p>・類似問題での正答率75%以上</p>
<p>【学級・学習集団づくり】</p> <p>○全学級が「学び合い」「ペア・グループ学習」を取り入れた授業を実施し、友達との関わり方を学ぶことができるようし、学級集団づくりを図る。</p> <p>○全学級で、学級活動や委員会活動、行事等では、児童一人一人に役割のある内容になるよう工夫する。</p> <p>○全学級が、暮会で児童の様子を共有する。</p>	<p>①QUの分析による実態把握を行い、全職員が各学年の集団の特性を理解するとともに特性に合った改善計画をの立案する。</p> <p>②QUや学カテスト等をもとに、重点的に指導すべき児童を全職員で共有する。</p> <p>③全職員が授業や委員会活動など、さまざまな場で集団や個の特性に合わせた指導を行う。</p> <p>④暮会において、重点児童の経過報告と今後の対応の共有をする。</p>	<p>①6月</p> <p>②6月</p> <p>③6月～2月</p> <p>④学期に数回</p>	<p>・QU2回目の一次支援の数値向上</p>